

第十三回 參議院文部委員會會議

昭和二十七年五月二十三日(金曜日)午後零時七分開会

出席者は左の通り。  
五月二十一日委員大屋晋三郎君補任  
つき、その補欠として木村守江君を議  
長において指名した。

委員長 梅原 順一  
理事

卷三

事務局側

○本日の会議に付した事件  
○地方税法の一部を改正する法律案に関する件

○理事(木内キヤウ君) 只今から文部委員会を開きます。

中でござりたいため、お詫びの意を込めてお詫び申し上げます。ましても修正方を希望をいたしたいと存じますが、御異議ございませんか。

○理事(木内キヤウ君) それでは専門員からその内容を御説明願いたいと思います。

○専門員(竹内総夫君) ではちよつと御説明いたします。先ほど委員長からお話をありましたように、地方税法の一部を改正する法律案が今地方行政委員会に付託されておるわけであります。これは大体いろいろな税の減免の規定を含んでおるわけでありますけれども、その中に学校関係の税の減免、それから文化方面における税の減免の規定が欠けておるようと思われますので、文部委員会のほうから、その修正を申込みたいと、こういうふうな委員のお話合いで以て一応ここにまとめてものを持つて参つたわけであります。そこで大体御説明を申しますと、この修正の点は一、二、三と三点あるわけであります。

そのうちの第一点は、これは入場税の税率を減じたいといろとこの申入れであります。では如何なるふうに、どういうふうな項目について税率を減ずるかと申しますと、現在御承知のように、入場税は一般に百分の百、十割課税ということになつておるわけであります。ところが地方税法の第七十七條を見ますと、純音楽についてはこれを百分の四十まで減ずることができるという規定になつております。ところがこの純音楽に準じて当然減税さるべきところの純舞踊、このバレーの純粹なる純舞踊、それから純演劇、こうい

うものが落ちておるわけであります。そこで今度の改正案におきましては、そなへておるところの純舞踊だけは今まで修正案に入つておるわけでありまして、こここの委員会としては、もう一つ純演劇もそれに加えて税率を百分の四十まで下げたいと、こういうふうな考え方を持つておるわけであります。そこでこの前このお話がありましたように、純演劇も百分の四十に加える、百分の四十まで下げるということになります。これがその項目一のうちの第一点であります。

その次第二点は、そこに書いてござりますように「主として文化財保護法の規定によつて指定され、又は選定された国宝、重要文化財、特別史跡名勝天然記念物、史跡名勝天然記念物若しくは無形文化財を公衆の観覽に供する催しが行われる場所へ入場する者」、こういうふうにして日本の文化財保護法によつて指定され、或いは選定されたこういう文化財を観覽するところの催し場へ入場するところの入場税は、現在は原則通りこれは百分の百といふ割になつております。これも当然百分の四十のほうに均霑さるべきものではなかろうか、こういふわけでのところにその二つを附加されたわけであります。即ちこの文部委員会から百分の百を百分の四十に減率したいというところの申込みの項目は、純演劇と、それから文化財保護法によつて指定された文化財を観覽する催しへの入場、その

おいて電気ガスを使用した場合に当然この電気ガス税が入つております。

これはこのプリントのあとほんにこの説明が書いてございますけれども、これは非常に現在の乏しい研究費としては非常に大きな負担になつております。

而もそれは全体の電気ガス税が百五十億円としますと、その一%に過ぎないといふうであります。ところにとつては極めて意味が少いにかわらず、出すところの学校にとつては極めて研究費に食い込むといふ、いろいろふうな非常な負担になつておりますから、この学校が電気ガスを使用する場合においては、この四百八十九條に規定するところの非課税の処置に拘泥させたい、これだけが今度の申入の内容になつております。結局要約して申しますと、入場税と電気ガス税、その入場税については百分の百を百分の四十に減ずるという申込みが一つ。それから入場税を全然これは免除してほしいという申込みが一つ。それから電気ガス税はこれは非課税と、こういふうふうな申入をしたいというわけであります。大体その申入の趣旨はこの三點に盡きておるだろと思ひます。

○理事(木内キヤウ君) では懇談に移つてよろしうござりますか……。速記をとめます。

午後零時二十分懇談会に移る

午後零時三十二分懇談会を終る

○理事(木内キヤウ君) 速記を始め  
て……。それでは懇談会を終ります。  
されどは只今事務局から修正意見案の御説明がありましたが、この地方行政委員会に対してもこの案を申入れすることに御異議はございませんでしよう

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○理事(木内キヤウ君) 決定いたしました。散会いたします。どうも有難うございました。

午後零時三十三分散会